

# 議案第号2号

## 令和7年度 事業計画・報告(案)

特定非営利活動法人 color

1.児童発達支援センター 児童発達支援 放課後等デイサービス 保育所等訪問支援 居宅訪問型児童発達支援	児童発達支援センター くるーる
2.多機能型事業所 児童発達支援 放課後等デイサービス 保育所等訪問支援 就労継続支援 B型	みずたま (みずたま・きなり)
3.相談支援事業 特定相談支援事業 障害児相談支援事業 地域移行支援事業 地域定着支援事業	相談支援センター さくら
4.日中一時支援事業	そらのいろ そらのいろ・くるーる
5.一般相談 高梁市障害者相談支援事業 巡回支援専門員整備に係る業務委託	たかはし障害者総合相談センター レイユール 相談支援センター さくら たかはし発達障害者支援センター
6.学習支援事業 学習支援塾 通信制サポート校	さいさい いぶき高等学院
7.ひきこもり支援	ひきこもりサポートセンター いろは
8.その他法人事業 行事・イベント 一時預かり事業 自発的活動支援事業 親の会支援 研修・講習会	夏祭り・WinterFestival いろいろ ぶどうの会

## I. 児童発達支援センター くるーる

### (1) 営業日・時間および定員

	営業日	営業時間	定員
①児童発達支援	月～土曜日	9:00-15:30	20人
②放課後等デイサービス	月～土曜日	9:00-15:30	20人
③居宅訪問型児童発達支援	月～土曜日	9:00-15:30	
④保育所等訪問支援	月～土曜日	8:00-17:30	

### (2) 各事業目標および結果

【計画・目標】	【結果】
① 児童発達支援 利用目標人数(延べ) : 4,720 人  ・保護者に療育の見学の場を設け、子どもへの関わり方を伝えていく支援を活発に行う(継続) ・リハビリ(高梁市障害児機能訓練事業)の取組を広報する ・周辺市町へ事業の広報を行っていく	利用人数:人 契約人数: 人
② 放課後等デイサービス 利用目標人数(延べ) : 430人  ・外出療育を実施し、事業所内だけではできない社会経験を積んでいくことができるようとする ・就学後の学校と連携しながら安心して学校生活を送ることができるように支援していく ・就学後、継続利用の意向がある児童は、他事業所への移行も含めて支援をしていく	利用人数:人 契約人数: 人
③ 居宅訪問型児童発達支援 利用目標人数(延べ) : 2人  ・利用できる体制を整えておく(継続) ・医療的なケアが必要な児童の有無など地域の対象となる子どもの情報を保健師等と情報共有をしていく(継続)	利用人数:人 契約人数: 人
④ 保育所等訪問支援 利用目標人数(延べ) : 125人  ・定期的に訪問することで、園や学校での集団活動へ参加することができるよう継続的な支援を実施する ・保育所等訪問支援の事業内容や目的を園や学校へ改めて説明し必要性の理解を求める	利用人数:人 契約人数: 人

(3)その他(研修・スクラム会議 等)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部の研修に積極的に参加する</li> <li>・スクラム会議や個別支援会議で関係機関と情報共有していく</li> <li>・日中の研修を継続し、どのスタッフもが同じような支援を提供できるように研修体制を整えていく</li> </ul>	
--	--

## 2.みずたま

(1) 営業日・時間および定員

	営業日	営業時間	定員
① 児童発達支援	月～土曜日	13:00～18:30	10名
② 放課後等デイサービス	月～土曜日	13:00～18:30	10名
③ 保育所等訪問支援	月～土曜日	8:00～18:00	
④ 就労継続支援B型	月～土曜日	9:30～15:30	15名

(2) 各事業目標

【計画・目標】	【結果・課題】
① 児童発達支援 利用目標人数(延べ)： 60人／年	利用人数:人 契約人数: 人
・就学後を見据え、必要な支援の整理を行い就学に向けた目標を立てる(継続) ・就学についての情報提供を行い、具体的なイメージを持つことで本人・保護者不安を解消していく(継続)	
② 放課後等デイサービス 利用目標人数(延べ)： 3,300人／年	利用人数:人 契約人数: 人
・学校や適応指導教室等と連携し、不登校児の支援を行う。不登校児童について、日中の居場所や相談先として、積極的な受け入れを行なっていく ・卒業後の進路をイメージできるよう、高校、就職先とも情報共有していく。また、療育で体験活動などを取り入れる	
③ 保育所等訪問支援 利用目標人数(延べ)： 100人／年	利用人数:人 契約人数: 人
・本人が学校等でどう過ごしたいと考えているのかニーズを把握し、学校とすり合わせながら、その場毎に適した手立てや対応方法を関係者で共有し支援を行う(継続) ・不登校状態にある児童については、同行して登校することにより登校できやすい環境を整えていく	
④ 就労継続支援 B型 利用目標人数(延べ)： 3,320 人／年	利用人数:人 契約人数: 人
・工賃向上のため、カレー販売の頻度と食数を増やす ・新規作業を増やすことができるよう、地域の企業等に仕	

事の切り出しができないかお願いをしていく ・既存の活動の生産効率を上げるよう支援方法を検討する ・余暇活動について、関係機関から周知、参加者を増やしていく	
---	--

(3)その他(研修・スクラム会議 等)

・他事業所を見学し、情報交換をしていくことにより、工賃向上、支援の質の向上に努める ・いろいろなスタッフがスクラム会議、研修に参加できるようにスキルアップに努める。(継続)	
---	--

### 3.相談支援センター さくら

(1) 営業日・時間および定員

	営業日	営業時間
① 特定相談支援事業	月～土曜日	9:00～17:00
② 障害児相談支援事業	月～土曜日	9:00～17:00
③ 地域移行支援	月～土曜日	9:00～17:00
④ 地域定着支援	月～土曜日	9:00～17:00

※上記以外の時間については、携帯電話で対応する。

(2)各事業目標

【計画・目標】	【結果・課題】
① 特定相談支援事業  契約目標人数： 50人(継続も含む)	契約人数： 人
・どの相談支援専門員であってもさまざまなケースに対応できるよう、事業所内外でのケース検討会等の機会を増やす ・地域のインフォーマルな社会資源を活用できるように情報収集していく ・医療やサービス事業所等と情報共有を行い、関係機関との連携、情報共有を密に行っていく(継続)	
② 障害児相談支援事業  契約目標人数： 165人(継続も含む)	契約人数： 人
・児童数が減少している反面、中学校入学後も福祉サービスを利用する児童は増えている。また、不登校状態の児童数も増加傾向にあるため、卒業後の相談体制を事業所と連携し、フォローしていく。 ・モニタリング月に関わらず日常的に相談しやすいよう相談機会を設ける ・市で行う就学前の説明会の補足を行うため、事業所での説明会を実施する。	

③ 地域移行支援事業	
契約目標人数：2人	契約人数：
・新規事業。まずは関係機関等へ広報し、退所・退院者支援を積極的に取り組む。	
・地域資源の情報を収集する。	
④ 地域定着支援事業	
契約目標人数：2人	契約人数：
・新規事業。まずは関係機関等へ広報する。	
・新規事業に関連した研修を行う。	

### (3) その他（研修・スクラム会議）

・スクラム会議を継続して実施し、高梁市の支援体制を整えていく。 ・自立支援協議会等に参加し、相談支援事業から見えてきた高梁市の課題を伝えていく（継続） ・高梁市や他の相談支援事業所と情報共有をしていく、新しい情報を収集していく。	
--	--

## 4. そらのいろ／そらのいろ・くるーる

### (1) 営業日・時間および定員

	営業日	営業時間	定員
そらのいろ	月～土曜日	8:00～18:30	20名程度
そらのいろ・くるーる	月～土曜日	8:00～18:30	10名程度

### (2) 各事業目標（契約者数 そらのいろ： 100人 そらのいろ・くるーる： 30人）

【計画・目標】	【結果・課題】
① 放課後利用 ・公園や園庭などを積極的に取り入れ、家族が安心して預けることができる場所を提供する。 ・下校時の状況を学校と情報共有しながら、個別に応じた支援を検討する	
② 土曜日、長期休暇等利用 ・安全に各自が楽しめるよう、活動内容とエリアの利用を工夫しながら取り組む。 ・事業所環境の変化があるため、利用児（者）、家族に十分に情報提供していく ・公共施設や公共交通機関などの家庭では経験できにくい活動を取り入れていく	

③ 送迎利用	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者や学校と確実に情報共有し、時間のミスないよう送迎を行う。</li> <li>・ゆとりをもって送迎を組むことができるよう、あらかじめ配車、配置スタッフの確認をしていく。</li> </ul>	

(3) その他(研修・スクラム会議)

・自閉症や発達についての研修に参加し、特性について深めていく ・成人期の余暇支援についてもニーズに合わせて提供していく。	
---	--

## 5. レイユール(たかはし発達障害者支援センター・相談支援センター さくら)

(1) 営業日・時間

	営業日	営業時間
レイユール	月～金曜日	9:00～17:00

(2) 各支援目標

【計画・目標】	【結果・課題】
<p>① 保育・教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・園、学校、学童への訪問支援について改めて周知し、訪問支援の目的、終息のタイミングなどを共有していく。</li> <li>・自立支援協議会児童部会と協働し、小学校移行後の継続的な支援や市内の高校との情報交換会の実施など市内の支援体制の充実に努めていく。</li> <li>・福祉サービスに繋がっていない子どもに対しても保護者や関係機関等への聞き取りを行い、必要に応じてスクラム会議を実施し必要な支援体制を整えていく(継続)</li> </ul>	18歳未満 名
<p>② 就労・成人期</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・困難事例については積極的に他機関の介入をお願いし、連携をとりながら支援していき、事例検討会を開催することで地域支援者のスキルアップにつなげる</li> <li>・企業への支援を充実できるように、一般企業への役割の周知に努めていく</li> </ul>	18歳以上 名

(3) その他(センター内会議・関係機関連係 等)

・基幹相談支援センターの役割を再確認しながら、発達障害者支援センターとして取り組むべき役割を果たす。 ・自立支援協議会(児童部会・就労部会・地域生活支援部会)への参加(継続)	
--	--

<ul style="list-style-type: none"> <li>・スクラム作戦の取り組みについて、市外に周知するとともに体制の継続、改善に取り組んでいく。</li> <li>・巡回相談の取組・成果報告を会議や研修会等を通じて周知できるようにしていく</li> </ul>	
--	--

## 6. 学習支援事業

### (1) 営業日・時間および定員

	営業日	営業時間	定員
さいさい	月～土曜日	16:00～18:00	12名程度
通信制高校サポート校	月～金曜日	9:00～15:00	2名程度

### (2) 各事業目標

【計画・目標】	【結果・課題】
さいさい	
登録人数 12人	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・主として宿題のサポートを中心に実施する</li> <li>・長期休暇中（夏季・冬季）、宿題を中心とした勉強会等の開催を検討していく（継続）</li> <li>・受験等個別に対応が必要な児童については、個別対応できる環境を整えていく</li> <li>・春休み期間中に復習や振り返り学習等、不十分だったところを学び直す機会を設ける</li> </ul>	
通信制高校サポート校【新規事業】	
登録人数 2人	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・通信制高校と連携をとりながら、サポート校の役割について、市内中学校、高校等に周知していく。</li> <li>・不登校傾向や集団での活動が苦手な児童を中心に、個別や小集団で学習できる環境を整えていく</li> </ul>	

### (3) その他（研修・関係機関連携 等）

<ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校傾向にある家庭を対象とした研修を開催する</li> </ul>	
--	--

## 7. ひきこもりサポートセンター いろは

### (1) 営業日・時間

	営業日	営業時間
ひきこもりサポートセンターいろは	月～金曜日	相談 9:00～17:00 居場所利用 15:30～17:00

【計画・目標】	【結果・課題】
<p>相談人数 25人／日(延べ250人／年)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度行った実態調査結果をもとに、関係機関と連携し、個別支援を行っていく</li> <li>・ひきこもり支援の必要性を広く市民や支援者へ周知できるようにチラシの再配布、広報に努める</li> <li>また、研修会を実施し、ひきこもり状態にある方に対する適切な支援方法を関係機関と共有する</li> <li>・個別ケースについては、今後希望する生活を確認しながら、ご本人のペースで社会参加につながるよう支援を継続する</li> <li>・居場所、活動場所などの設置方法を工夫し参加できやすい環境を整えていく</li> <li>・ひきこもり当事者の研修を実施し、地域の方にひきこもりの現状や必要な支援を伝えていく機会をつくる</li> </ul>	

## 8.その他 法人事業

### (1)各事業目標

【計画・目標】	【結果・課題】
①行事・イベント	
1) 夏祭り	
利用目標人数 300人	実績 人
地域団体、学生ボランティア等の参加を積極的に呼びかけ、地域交流だけでなく、color の活動の啓発につなげていく(継続) イベントをきっかけにおもちゃや衣類など物品を必要な世帯に配布していく	
2) Winter Festival	
利用目標人数 300人	実績 人
地域の幅広い年齢層方に参加してもらえるような活動を目指す 活動内容を工夫し今まで参加のなかった方にも興味を持ってもらえるような企画を検討する(継続) 事業所で回収した学用品の配布を行い、必要な物品の循環ができる機会を作る	
②一時預かり事業	
利用目標人数(延べ) 150人	実績 人 契約人数 人
利用ニーズを再確認し、利用できやすい体制を整え	

ていく 利用希望に確実に対応できるように、登録保育スタッフの確保、募集を継続的に行う	
③ 自発的活動支援事業	
・ペアトレ及びステップアップ講座 ・発達支援講習会 保護者・当事者による研修 支援者向け支援研修 保護者向け支援研修	
④親の会支援(ぶどうの会)	
月に1回程度保護者が集まれる場を設定し、日常の困りごと、子どものことなどを話せるようにする。家族が主体的に活動できるように支援する。 保護者主体の研修会やイベントを開催する ・視察研修 ・消防署見学 ・ヨガ体験 ・懇親会 ・お菓子作り	
⑤研修・講習会	
1)スタッフ研修(内部)(1~2回／月)	
・自閉症支援研修 ・コミュニケーション研修	
2)外部研修・講習会	
・自閉症研修(1回／2ヶ月) 川崎医療福祉大学 重松孝治先生へ依頼 ・外部講師研修	